

会議名	令和7年度西尾市子ども読書推進委員会
日時	令和8年1月22日(木)午後2時～3時
場所	西尾市立図書館 会議室
出席者 【敬称略】	委員 安井克彦(委員長)、伊與田明美、菅沼律哉(副委員長)、本田尚代、 稲葉弘子、水谷文美乃、今本政勝、澤雅 事務局 伊奈八千代、生田美恵、古居加奈
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会次第 ・第4次施策達成度進捗状況表(令和6年度実績・令和7年度見込み) ・西尾市子ども読書推進委員会名簿 ・西尾市子ども読書推進委員会規則

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

教育部長あいさつ

2 自己紹介

各委員自己紹介

3 委員長及び副委員長選出

【委員長】安井克彦委員 【副委員長】菅沼律哉委員

4 議題

(1) 西尾市子ども読書活動推進計画進捗状況について

事務局 各担当課から報告のあった令和6年度の実績、令和7年度の見込みを反映させています。それに基づき、6年度の達成度の評価案を入れてありますので合わせてご覧ください。評価案では、和6年度の実績が、目標値を達成できている場合「◎」、達成には至らなかったが、概ねできている場合であれば「○」または「△」とし、実施できていない場合は「×」としました。表の項目の一番左「議題」から4番目に「通し番号」がありますが、この通し番号で説明させていただきます。

【基本方針1：家庭・地域における子どもの読書活動の推進】

12項目中10項目が◎と○、2項目を×としました。×となっている通し番号3「幼児の健康診査の会場で配布している年齢に応じた啓発パンフレットの内容の見直し」については、来月行う編集会議で内容の見直しを行い、令和8年4月から新しいパンフレットを配布する予定です。また、通し番号7「地域で活動する子育てサークルや出前講座で子どもの読書活動に関する啓発パンフレット等の情報を提供」することについては、令和5年度まで保健センターで平日に開催されていたマタニティクラスで絵本に関する講話を行っており、その場で情報提供をしていましたが、令和6年度から開催日が土日に変更されたため、図書館から出向いていくことが難しく、実施できませんでしたが、令和7年度は、子育て支援センターなどへの出前講座の際に、読み聞かせに関する情報提供を行っています。

【基本方針2：学校等における子どもの読書活動の推進と学校図書館の充実】

15項目中、13項目が◎と○、2項目を△としました。通し番号25 学校規模に合わせた図書資料の購入を計画的に行っている学校の割合、及び通し番号26 学級文庫の図書資料を置く学校の割合が目標値を少し下回っていましたので△とさせていただきました。

【基本方針3：図書館における子どもの読書活動の推進と図書館の充実】

24項目中23項目が◎と○、残りの1項目を△としました。通し番号47 図書館ボランティア

アの養成講座の実施数が、目標10講座のところ、4講座であったため△としました。令和7年度についても、4講座の見込みとなっています。令和8年度は、増やしていけるよう、意識して行事を行ってまいります。

【基本方針4：子どもの読書活動を推進するための理解・関心の普及とネットワーク化】

通し番号55を除いた8項目中、6項目が◎、残り2項目を△としました。通し番号57 子ども司書の養成人数の目標20人のところ、申込が16人、子ども司書の認定者は13人でした。この講座は全7～8回の講座となっており、認定条件をクリアすると、子ども司書として認定をしています。令和7年は、認定条件としていた必須講座を選択制に変更し、3つの体験講座を1日で完了できるようにするなど、参加しやすい講座構成に見直しを行い、認定者は20人となっています。また、通し番号60「新たに図書館システムとネットワークを結んだ施設数」に関しましては、令和5年度の図書館情報システムの更新時に横須賀ふれあいセンターに新たにシステムを設置しネットワークを結びました。次回のシステム更新が令和10年度になるため、それまでに費用対効果等を踏まえて検討していきます。

以上、進捗状況の説明とさせていただきます。

委員 ×や△が多少あるかもしれないが、フォローアップも考えられており、一生懸命取り組まれていると思う。特に通し番号12と44の取り組みが良い。子どもは、はじめ児童書から入るが、成長とともに背伸びをしたくなる。中学年の子が中学年向きのもので読んだら次は高学年向けのものを、中学生の子はYAから大人が読むような本も読みたくなってくる。そういったことに対応してあげたいので、児童書がしっかり入っているけれども、一般書もきちんとそろっており、幅広いニーズに応えられるということでよい数字が、特に44番はできていると思う。引き続き同じように進めていただきたい。

委員 1月から幡豆児童館が多世代交流プラザへ場所を移した。多世代ということで子どもだけでなく大人までのもの図書館をお願いしている。児童館は18歳まで利用できる施設だが、西尾は子どもだけで、中高生が来られないような内容になっており、夏休み期間など試験的に時間延長して中高生が来られるようにしていきたいと考えているため、本についてはまた相談させてもらいたい。

事務局 学校図書館と市立図書館との違いは、学校図書館は主に児童書と絵本が多い、市立図書館には児童書もあるけれど大人の本もあり、同じ場所で選ぶことができ、それぞれの良さがある。学校は子どもたちに身近で親しめる場所で、図書館は両方あるので休みの日に、と使い分けてもらえるとよい。

委員 44番について、目標32%に対して32%であれば達成率は100%だと思うのだが。

事務局 そうです。

委員 児童書で早い時期にこの1冊にというところで、児童館などで読み聞かせはしているが、もっと本を身近に感じるような、お母さんや子どもたちが興味を持つようなイベントは読み聞かせ以外にどんなものがあるか。

委員 有名絵本作家さんが来て、何かをつくるっていう講習があったと思う。

事務局 図書館では、絵本作家の講演会を実施しています。

委員 イベントでなくても、普段子どもたちが遊びに来ているとき、どういうふうに声がけしたらよいか。

委員 学校の先生がよくやるのは、ブックトークです。1冊本をもってきて、「こんなことがかいてあ

って、親子の関係が素敵なお本だよ」と紹介する。次に、「親子の関係を書いた本は他にもこういう本があって、泣ける本だよ」、「泣ける本と言うと、うれしさと泣く本でこういう本があるよ」というように、読ませたい本の話をしながらか、その間をクイズや内容を紹介する。それも、「自分はすごく好きだよ」という言い方をする。すると、先生が好きな本をたまには読んでみようかなと思っ手て手に取ってくれ子がいる。むりやりあれがいい、これ読めと言われて読むのは多分嫌だと思っので、「自分は良かった」という言い方をしてる。

委員 学校現場でいろいろと工夫してやってみえますね。

事務局 図書館のおはなし会でも、何冊かを読んだあとに、その季節の本を紹介だけするということもしている。おはなし会だと子どもは30分くらいしか集中できないので、何冊か読んで、最後に今の季節なら雪のでてくる本だったり、クリスマスならクリスマスの本だったりを紹介だけして、よかったら借りてお家で読んであげてくださいと伝えている。

委員 たとえば、図書館職員に来てもらって、職員に教えてもらえますか。

事務局 できます。

委員 53・54番が実施となっているが、他の項目と同じように子ども向けホームページの更新状況など、細かく明記した方がよい。また55番については、次の計画を立てる前の年にアンケートを取ると思うのですが、令和6・7年度は評価の対象でないのであれば、棒線が良いと思う。

事務局 そのように修正します。

委員 いろいろなことをやっていただいてありがたいと思う。定期的におはなし会をやっているが、娯楽の多様化もあって、図書館ばかりではなくなってしまったのかなと思う。おはなし会に参加する子どもたちも年々少なくなってきたり寂しい。子どもたちはすごい本が大好き。実は八ツ面小学校の支援学級に行っているが、支援級の子どもたちも図書館へ行くと、とても喜んでいる。その様子を見てると、もっと図書館に来てもらえるといいなと感じている。

委員 保健センターにも本を置いてもらっているが、コロナ禍から待ち時間を減らすということもあり、滞在時間が少なくなっている。子どもと一緒に本を読んでいるお母さんもいるが、全体的に本を触っていない親が多いと感じる。健診でお子さんと何しますかと聞くと、昔は「いっしょに絵本をみます」という方が多かった。最近では、子どもに動画ばかりみせているが大丈夫かという相談が多い。子どもとコミュニケーションをとるのがあまり得意でないお母さんが増えているので、本などを使って、上手に子どもとコミュニケーションをとる人が少なくなってきたのではないかな。ブックスタートで、子どもが本をみると楽しそうな様子を感じると、いいことだと理解していると思うが、1歳6か月児健診時であまり本を読んでいるように感じる。親世代も本にふれあう機会が減ってきているような印象を受ける。

委員 今お話を聞いていて、子どもの発達のことになってしまうが、同じものを見て共感するという媒体として、本はとってもいいもの。あれ見てというより、膝に入れていっしょのものをみるという心地よさを体験していくことが、絵本を好きになることだけじゃなくて、愛情とか子育てで大事なことだと思っているので、ブックスタートは素敵なお活動だなと思っていました。ただ今、1歳半のときに、本からちょっと離れてしまっているということを知ると、動画の影響が大きいのだろうと思う。保育園では定期的に読み聞かせをしているし、それが減っているということはないが、家庭の中では減っているなと思っでいて、市役所の窓口の待ち時間に、絵本コーナーでお母さんが読んで待っている人もいるが、ずっと動画を見させている人が本当に増えてきている。お父さんでもちゃんと読んでつきあってあげられる人とすごく差があっで、その子に対する本の

ウエイトがその時期にずれてきてしまうということを感じた。感想になってしまうが、娘は本が大好きで、先生に最初のとっかかりを紹介してもらって、次から次からへと膨らんでいくのを見てきた。そういう環境を学校でもしかけてあげていて、保育園でももちろん、赤ちゃんのときもしかけたことがつながっていくと、すごく子どもの社会における生き活きた生活とか、人生が豊かになるのかなと思う。

委員 42番について、4年度に比べ6年度は4千冊ほど減少しているが、4千冊くらいの動きは当たりなのか、何か原因を掴んでいるのであれば教えてほしい。

事務局 4年度の詳細を把握していないが、もしかすると希望する団体数が減っているのかもしれない。1校減るだけでも、冊数にすると大きい。

委員 私も子どもが小さい頃はここへ来てよく本を借りていて、とても助かっていましたし、よく読んでいたなという記憶があるが、今子どもは中学と高校生だが、帰宅して気づけば携帯を触っているの、また本を勧めてみようと思う。

委員 学校の方はどうでしょうか。

委員 学校でスマホの利用は禁止になっている。今の子どもたちは、やはりスマホがはなせないという状況のようだ。本を読み聞かせるときは、膝の上に乗せて読んだりするので、体温が伝わり、息遣いや感情も伝わっていき、それがそのまま子育てにつながるが、動画は子守をさせているだけで、何も伝わらない。「ぼくスマホになりたい」というような歌があって、内容は、お母さんがいつもスマホばかり見ているので、ぼくがスマホになったらお母さんは僕をみてるのかなという、切ないもの。親と話をするとき、もし僕が何でもきめていいのであれば、スマホではなく、本をいっしょに読む、それだけでずいぶん変わるという話をしている。もうひとつ、昔のことだが、小学校2年生の子がお母さんの絵を描いて持って来たら、首から下だけの絵だった。先生になったばかりで素人同然だったので怖くなり、近くの大学の心理学の先生に確認しに行ったら、それは親が顔を見せてないだけで、親に抱き上げて目の高さでスキンシップをとるように伝えてと言われた。当時その子はチックの症状があったが、お母さんに伝えて実践してもらったら、みるみるうちに良くなって、症状が治った。いかにスキンシップが大事かという一例で、有効なのが絵本をいっしょに見ることだと思う。

委員 子育て支援センターや児童館で子育てアンケートをとっている。親の意見を聞くと、児童館にWi-Fiを整備してほしいという意見がとても多い。なぜかというと、ゲームをもって集まって友達の家へ行くが、児童館にWi-Fiがあるなら児童館に集まって、親は居場所がわかって安心だという。児童館はスマホ禁止なので、持ってきてもいいけど触らないとしている。ただ中高生はまた別かもしれないが、5時までの間はスマホ禁止。そういう要望がでてくる状況は少なさみしいと思う。

委員 スマホとスマホでは人と人がかかわれない。だからそれでいいと思う。その分、本でもいいし、人でもいいし、かかわっていくことが大切。

委員 子どもたちに児童館に来てほしいが、どんなものがあったら来るかと聞くと、だいたいWi-Fi。Wi-Fiがないと、友達の家に行ってスマホやゲームを持って行って集まっているから、それであれば児童館にWi-Fiを整備してくれたらって言われるが、公民館にはあるか。

委員 公民館にはある。高校生になるとスマホを使って勉強することがあるようで、高校生が自習でよく来ているので、順次整備をしている。

委員 児童館にはなくて良いと思う。学校でも1人1台タブレットを使用している。そちらに偏りす

ぎてはダメ。それよりも子どもの顔をみながら、先生の顔を見せながらやっていく学びを大事にしていかないと、学校の勉強はよくなっても、人とのふれあいとか、悔しいとか嬉しいとかそういうことが減ってしまっではいけない。

委員長により令和7年度子ども読書推進委員会の議事を終了し閉会した。